

我々は、コロナ禍を奇禍として、人類の未来を拓く目標に挑戦しよう！

COVID-19 で渡航が困難な期間、アフリカ、中東、中南米の、POLY-GLU 未普及 3ヶ国では、メールとTV会議に頼り「現地で調達できる器材だけ」を使用して、浄水プラントを、総額 3,000US ㊦以内で造り、1時間16トンの「安全な水」給水を可能にする、第一号機製作に挑戦しています。装置の完成は4月15日、世界に先駆けて、パキスタン・カラチチームがやり抜くでしょう。「可能な限り知恵を働かそう！」で、メール、TV会議を多用して現地の人々だけで、浄水設備を造れるように工夫をしました。

同国の人々自作の給水プラントは、1家族1日20㊦給水するとして、1万所帯、約5万人に安全な水を供給することが出来ます。

20㊦給水する家庭は、月に2ドルの水代金を支払います。

POLY-GLU の浄化剤は、2㊦の内、1㊦です。残り1㊦は現地管理機構の粗利です。

JICA や NGO による ODA の井戸援助は、1ヶ所2万㊦以上必要です。

給水人口は200所帯、しかも、2年間保ちません。

私達と現地政府、住民達との連携で、寄付や、援助に頼らず、自国だけで、住民の飲料水問題は解決できるのです。3000㊦で1万所帯、5万人に給水。

5000㊦では2万所帯10万人に給水。この規模では雇用も300人創出できます。

国連や他国の援助に一切、頼らず、途上国自からが自国の水問題を解決できる様にします。



福島原発事故汚染水問題。

「膨大なタンク中にはセシウム、ストロンチウムが残留している」公開で「水質検査すべきだ」「アルプスに浄水能力は無い」と、度々発言してきました。

「心ある研究機関」から、ご希望が有れば、我々が知り得た技術の全てを無償で提供します。政治的に関わる機関とは、一切、お付き合いできません。

私達は国難に少しでも役に立てばと思っています。

今回は、東工大研究チームの実証詳細数値データを公開します。

5, Apr, 2021 小田兼利